



ほそく て おお くて 細久手宿 ~ 大湫宿 約 5.9 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは?

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

細久手宿

細久手宿は、海拔420メートルの山中に発達した、江戸から48番目の宿場で天保14年(1843)の記録によると、戸数65軒を数え、うち24軒が旅籠を営んでいたようです。宿のはじまりは、徳川家康に重用されていた美濃奉行の大久保石見守長安が土地の豪族の国枝与左衛門に新しい宿をつくるように命じ、与左衛門は慶長11年(1606)に七戸の家を建てました。ところが、慶長14年(1609)に何者かによってその家を焼かれてしまい、石見守は公儀からのお金で家を建て替えさせたといいます。

大湫神明神社 (天然記念物の大杉)

神明神社の社殿の前にそびえる御神木で、樹齢1300年余と推定され、コブを付け太い枝を張り広げている姿は圧倒的な存在感です。大田南畝の旅日記『壬戌紀行』の中にも「駅の中なる左の方に大きい杉の木あり、木の元に神明の宮を建つ」と記されており、その時代からすでに大湫宿のシンボルだったのでしょう。

奥之田一里塚

瑞浪市内の中山道には昔のままの一里塚が連続して4カ所残っています。一里塚は、室町時代の末期に中国の一里塚にならって各地につくられ、織田信長によってさらに広められました。江戸時代になると全国統治上整備された五街道に築かれました。今では多くが廃頽していますが、鴨ノ巣、奥之田、八瀬沢、権現山と連続した4カ所の一里塚が当時のまま残っている例は全国的にもまれです。

琵琶峠の石畳

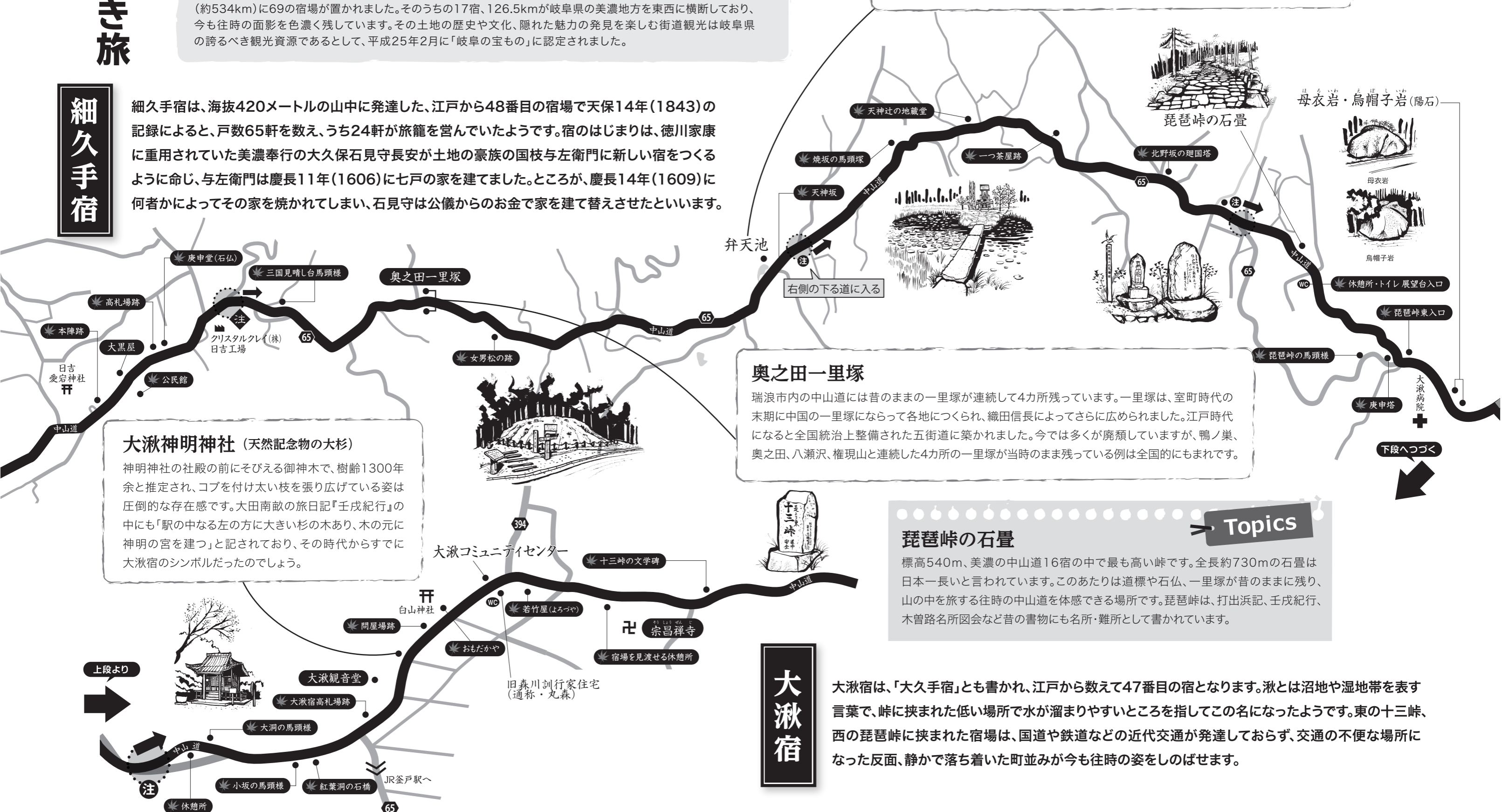
標高540m、美濃の中山道16宿の中で最も高い峠です。全長約730mの石畳は日本一長いと言われています。このあたりは道標や石仏、一里塚が昔のままに残り、山の中を旅する往時の中山道を体感できる場所です。琵琶峠は、打出浜記、壬戌紀行、木曾路名所図会など昔の書物にも名所・難所として書かれています。

大湫宿

大湫宿は、「大久手宿」とも書かれ、江戸から数えて47番目の宿となります。湫とは沼地や湿地帯を表す言葉で、峠に挟まれた低い場所で水が溜まりやすいところを指してこの名になったようです。東の十三峠、西の琵琶峠に挟まれた宿場は、国道や鉄道などの近代交通が発達しておらず、交通の不便な場所になった反面、静かで落ち着いた町並みが今も往時の姿をしのばせます。

弁天池

大田南畝の『壬戌紀行』にも「小さき池あり 杜若生ひしげり 池の中に弁財天の宮あり」と書かれている750㎡ほどの浅い池で、小島に天保7年(1836)に再建された石の祠が祀られています。古くから水をたたえてきたこの池は、多くの旅人に愛されてきました。青々と澄んだ水に睡蓮やカキツバタの花が祠を囲むように咲く神秘的な場所です。



Topics